

とさしみず
ジオパークだより

あしずり温泉



「あしずり温泉」にやってきました。



ここってジオパークに関係あるが？



足摺岬や白山洞門と同じように、大地の遺産として将来に残していくジオサイトのひとつとしてあしずり温泉を指定しているんだ。言い伝えでは、弘法大師が金剛福寺を開いた時に、疲れを癒す温泉が湧いていたそう。今では地下600mのところから温泉をくみ上げているんだ。



へえー、温泉も大地の遺産ながや。



そう。温泉は、温泉法という法律で、地下から湧き出た25℃以上の水、又は炭酸とか硫黄とか地下の物質が溶け込んだものと決められているんだ。足摺岬は花崗岩でできているよね。あしずり温泉には花崗岩の中に含まれているラドンという物質が溶け込んでいるんだ。



温泉って火山の近くにあるイメージ。でも、足摺岬には火山はないでね？



そうだね。正確には、地下水が地下のマグマだまりで温められたり、地下水にマグマの成分が溶け出したりして温泉ができるよ。火山はマグマの出口だね。マグマは陸地の下に沈み込む海のプレートが深さ100kmほどのところで岩が溶けてできるんだ。土佐湾の南には、南海トラフ地震にも関係がある「南海トラフ」という場所で、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込んでいるよ。でも、高知県の付近ではフィリピン海プレートは深さ20~30kmほどまでしか沈み込んでいないので、マグマができないんだ。だから、土佐清水市も含めて、現在の高知県に火山はないんだよ。一方で、九州ではフィリピン海プレートが急角度で深く沈み込んでいるので、マグマができ、阿蘇山、霧島山、桜島などたくさんの火山があるよ。もちろんその周りには熱い温泉が湧き出しているんだ。

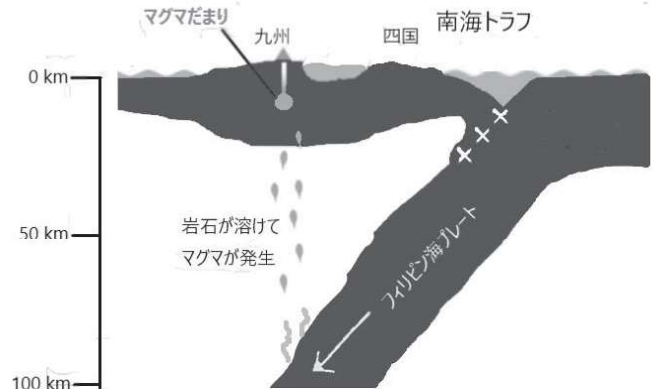


図1：マグマだまりのでき方
(気象庁ホームページ「火山噴火のしくみ」の図をもとに作成)



あれ、じゃあ、なんで足摺岬にはマグマがないのに温泉があるが？



いいところに気がついたね。今の足摺岬には確かにマグマがない。でも、1300万年前にはあったんだ。



1300万年前？



1300万年前はちょうど足摺岬の花崗岩ができた頃なんだ。そのころは、足摺岬や室戸岬、紀伊半島など、日本列島の太平洋側で活発なマグマ活動が起きていた。このマグマが地下深くでゆっくり冷え固まってできたのが足摺岬の花崗岩で、あしずり温泉の「もと」になっているんだよ。この花崗岩は今ではすっかり冷え切っているから、あしずり温泉は水温も低めで、22℃程度なんだ。ただし、足摺岬のマグマは火山として噴火したことはないみたい。



図2：足摺岬の白っぽい岩は、1300万年前にマグマが冷え固まってできた花崗岩



じゃあ、大昔、1300万年も前のマグマ活動があしずり温泉を作ったが？すごい！



だから、あしずり温泉に浸かるということは、1300万年前の大地の記憶を体感しているってこと。ゆっくり温泉に浸かりながら、はるか昔に思いを巡らせてみるのも楽しいんじゃないかな。

発行

土佐清水ジオパーク推進協議会 〒787-0450 土佐清水市三崎字今芝 4032-2
TEL 87-9590 MAIL geopark@city.tosashimizu.lg.jp

WEB

